



藤原宮大極殿院東面回廊および内庭東北部を調査し、回廊の柱位置や先行四条条間路の側溝などを確認しました。今回の調査により、大極殿院東面回廊および内庭東北部の様相が解明されたことは、藤原宮大極殿院の構造および古宮都の今後の調査研究に関して、重要な成果です。

大極殿院は藤原宮の中心部に位置し、その中央には即位や元日朝賀などの儀式の際に天皇が出御する大極殿があります。

大極殿院の調査は、1934年時の日本古文化研究所による調査に始まり、1977年以降は奈良文化財研究所が継続的に進めてきました。これらの調査により、回廊は礎石建ち、瓦葺きの複廊で四面には門が開くことが判明しています。2019年度の調査では、東面回廊に取付く大極殿後方東回廊を発見しました。今回は大極殿院東北部の東面回廊および内庭を調査しました。

東面回廊 磂石建ち、瓦葺きの複廊形式の回廊で、基壇は橙褐色粘質土を板状に積み上げて造成しています。棟通りおよび東側柱通りにおいて、桁行7間分、礎石据付穴16基をあらたに検出しました。柱間寸法は、桁行3.8～4.0m(13.0～13.5尺)、梁行約2.9 m (10尺)です。

今回の調査により、東面回廊のうち、大極殿後方東回廊と北面回廊の間は桁行總長約47.1 m、12間であることが明らかになりました。当該部分の桁間寸法は13.5尺を基本とし、大極殿後方東回廊より南方の東面回廊が、約4.1 m (14尺)を基本としているとの異なります。

内庭 大極殿院内庭では、直径3～15cm大的礎を敷いていることを確認しました。

回廊基壇の南北溝 回廊基壇の東西で、南北溝1・2を検出した。回廊基壇造成時に掘られた溝です。

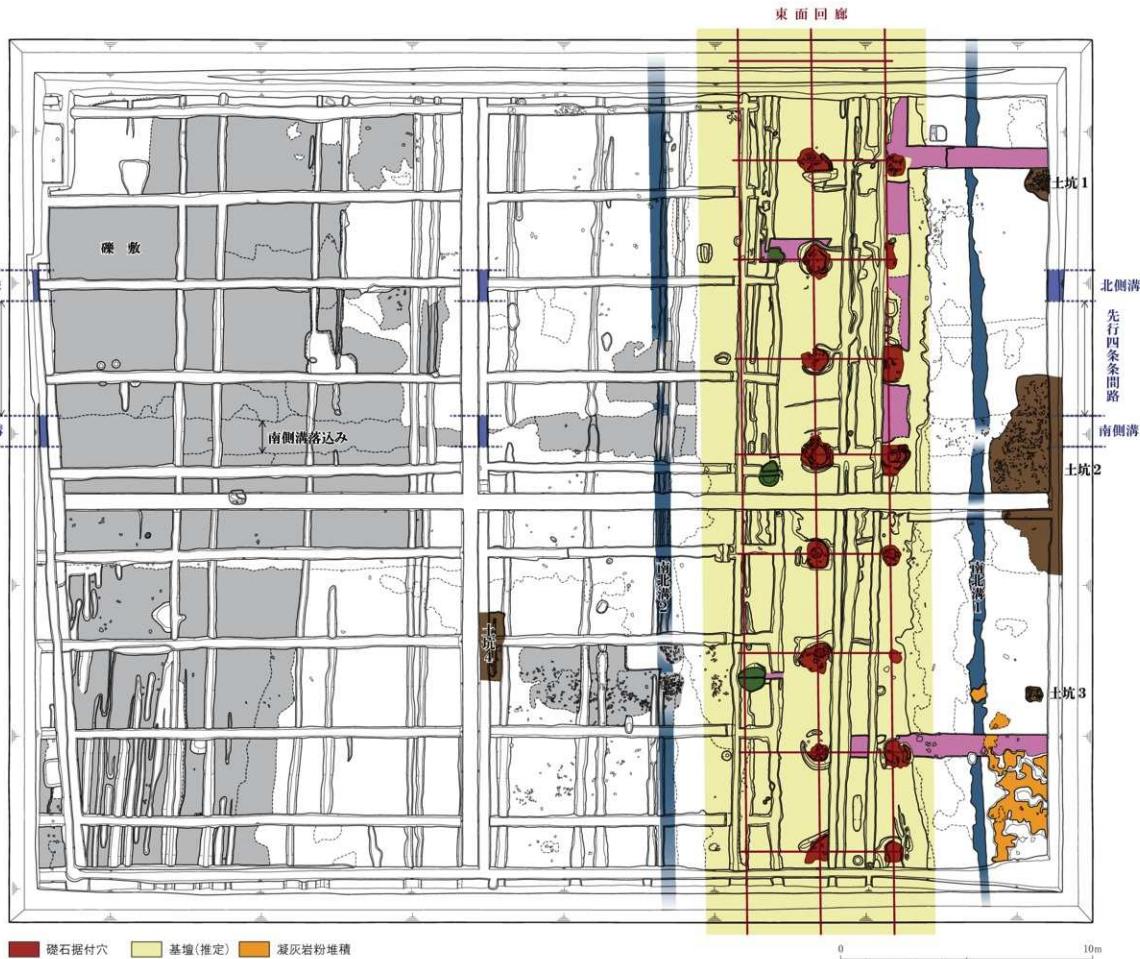
宮造営時の土坑 東面回廊東方で土坑1・2・3を検出しました。埋土に瓦が多く含みます。

先行四条条間路 調査区の北部を東西に通る道路です。北側溝と南側溝を検出しました。藤原京の条坊道路が藤原宮造営前に施工されていることを示しています。

宮廐絶後の瓦堆積 東面回廊基壇を中心に、多量の瓦が堆積する状況を確認しました。

礎石移動痕跡 東面回廊棟通りの1.5～2.0m西方において、前述の瓦堆積の上面に、基壇土由来と考えられる橙褐色土が堆積し、その表面に花崗岩粉が固着している状況を3か所で確認しました。基壇が削平され、その上面に瓦が堆積した段階においても、回廊の礎石のうち、いくつかが当初位置に残っており、後に、それらの礎石を移動させた場所を示す痕跡と考えられます。

宮廐絶後の土坑 調査区の中央部において土坑4を検出しました。埋土に瓦などを含みます。



飛鳥藤原第205次調査遺構平面図